

OH!マイ瀬戸内 瀬戸内を語るシンポジウム ～世界を呼び込む魅力の発信～

日時：平成28年7月18日（月・祝）13：30～15：08

場所：レグザムホール（香川県県民ホール） 小ホール棟5階 多目的大会議室「玉藻」

主催：OHK岡山放送 特別共催：今治造船グループ 協賛：シャボン玉石けん

後援：香川県、岡山県、公益社団法人香川県観光協会、公益社団法人岡山県観光連盟、四国新聞社、山陽新聞社、産経新聞社高松支局、産経新聞社岡山支局、一般社団法人せとうち観光推進機構

内容：

○はじめに

- ・本日は「海の日」、瀬戸内海は光を輝かしています。海の日を制定しているのは日本だけ。海を大切にしてきたことが伝わる一日、進歩にふさわしい一日に。
- ・観光立国日本、瀬戸内エリアは
- ・OH!マイ瀬戸内プロジェクトを社内に立ち上げ、ニュースや特別番組でお届けしている。
- ・その中でも大きな取組が本日のシンポジウム。

13:32～13:35 OH!マイ瀬戸内 ビデオ

- ・1934年 日本初の国立公園の指定。
- ・島々に息づく多様な文化は訪れる人を感動に。
- ・3回目の瀬戸内芸術祭、アートを媒介にした交流も生まれ、国内外から多くの観光客が。
- ・官民連携して瀬戸内ブランドを打ち出すプロジェクトを春に立ち上げ。
- ・昔ながらの自然が織りなす魅力、時代の新たな魅力、その魅力をさらに広めて行くにはどうしたら、玄関口となる岡山、香川。新たなコンテンツを発信するには、何が必要になるか。
- ・瀬戸内のこれからを考えるシンポジウムです。



13:35～13:38 パネリスト紹介

○パネリスト

- ・黒川節弘：今治造船代表取締役副社長
- ・小嶋光信：岡山に本社 両備グループ代表CEO
- ・内海武彦：B級グルメで地域おこし、整形外科医 四国B級ご当地グルメ連携協議会議長
- ・石川康晴：岡山市に本社 数々のブランドを展開、ライフスタイル、アートへの取組 ストライプインターナショナル代表取締役社長
- ・小西智都子：瀬戸内の島々のことでは一番詳しいかも、有人島の数多い取材 雑誌「せとうち暮らし」総編集長
- ・アレックス・カー：アメリカ出身 若い頃から日本を研究 数々の著書 東洋文化研究家

○コーディネーター

- ・梅原利之：観光協会会長を11年、四国新幹線の実現に尽力 JR四国顧問

13:38～15:05 瀬戸内を語るシンポジウム ～世界を呼び込む魅力の発信～

□梅原：

- ・1時間半で6名のパネリスト、ポイントに絞ってお話いただくことをお願い。時間を守っていただき、フリーの発言を。

- ・目の前のギャラリーで10時30分から瀬戸内芸術祭の夏期のオープン。今回のテーマは「東アジア、タイ」、「食」、「地方文化」の三つ。
- ・地元でも瀬戸内のことを知らないのでは。また、課題も多いのでは。
- ・日本人よりも日本の文化に詳しく、東アジアや世界全体について詳しいアレックスさんに瀬戸内の魅力について5分で。

○アレックス・カー：

- ・今日は海の日。原点は「海」。
- ・父は海が好きで、ヨットで世界一周した。地中海とかの美しさにあこがれてまわり始め、最後に瀬戸内海へ。
- ・瀬戸内海は荒れることが無く、湖と海のあいだのもの。
- ・岡山や香川は、まあいぽつんぽつんとしたかわいい山。瀬戸内にもかわいい島々。
- ・中国の山水画では、そびえるようなゴツゴツとした山。日本の絵の山は優しい山で、その典型が瀬戸内の山。
- ・また、瀬戸内は気候も良い。小さな島にはみかん畑、空気が甘く、なんともいえないロマン。

◇3つのポイント

- ・文化：ロマン 大山祇神社（おおやまづみじんじゃ）の刀、お遍路、・・・文化の多さ、密度の高さ
- ・バラエティ：神戸の港から、かわいい浜、ダイビングの場所、愛媛の段畑 海も山も、仏教系も信教系も、多様性がある。日本の遊び場である。

□梅原：

- ・新渡戸稲造（にとべいなぞう）「瀬戸内海は世界の宝石である」
- ・瀬戸内芸術祭のビデオを見てください。

◇瀬戸内芸術祭のビデオ 13:48~13:50

- ・3年に一度の開催、今年で3回目。
 - ・経済効果は132億円。しかし、恩恵はそれだけではない。観光客が増えるだけでなく、島への移住者が増え、休校していた学校が再開。
 - ・これまで培ってきた文化は、芸術祭開催の意味とは、瀬戸内はどう変わったのか。
- ・瀬戸芸について、アートで発信することの意義、魅力はアップしたのか、順番にお聞きしたい。

○アレックス・カー：

- ・広域で来てもらうこと 北川フラム 越後の取組を瀬戸内という広域で実施。世界が注目している。
- ・タイの友人が島に行っている。世界のアーティストは、「一度は直島や瀬戸内に行かなければ」というまで影響が大きくなっている。
- ・瀬戸内の島々は寂しく、空き家が増え、フェリーが無くなり、静かになってしまっていた。
- ・この企画により、若いアーティストが入ってきて、画廊やカフェに。
- ・日本では「古い = ダメ」だったが、古民家、古い漁港って楽しいな、都会で出来ないことが出来るとひらめくすばらしい取組。
- ・関係する島も増えていっているのはすばらしい。期待しています。

□梅原：今日のパネリストは岡山と香川の人が混じっている。岡山で活躍の石川さん。

○石川：

- ・現代美術はどう見ればいいのか？ 美しいものを見るのではなく、作家がどのような背景思想で盛り込んでいるのか、作家の概念を見るものが現代芸術の見方。ここから、現代芸術の楽しさが始まる。
- ・いぬじま 岡山市にあり、渡船で5分ほど。精錬所が残っていて、古いものを残しながら新しいものを作ることがすばらしい。
- ・「無いものは作るが、良いものは残す」 そういうアプローチを見てください。
- ・建築界のノーベル賞 サナの作品を見ることが出来る、魅力的。

□梅原：岡山を代表する経済界のリーダー。全国に猫ブームを引き起こした張本人。瀬戸芸の話を。

○小島：

- ・ここまで来るとは思わなかった。
- ・瀬戸内海は架橋が出来る前と後で変わった。鷲羽山は車で上がれないほどにぎわっていたものが、架橋後は人影が見られなくなった。
- ・架橋の前に、牛窓を東洋の地中海として、いろいろなことをやってきた。架橋後は人影が消えていった。
- ・人影が消えていったのを変えていった、島々を舞台に変えていったインパクトが瀬戸芸。
- ・ブリキの缶で作った大きなオブジェクト、港そのものが粋な港に変わった。産業廃棄物の缶カラが、うまく使うと芸術に変わっていくことを思い知らされた。
- ・エーゲ海よりも瀬戸内海は美しい。海の中の島の緑がきれいだった。これが瀬戸内海の原点だ。

□梅原：こちらは香川の代表。瀬戸芸について。

○黒川：

- ・私は芸術家でも学者でもないのですが、瀬戸芸を最初に聞いたときには「それは、なに？」だった。それが、飛行機の機内で若者が瀬戸芸ではどこに行くかを話し合っている。
- ・海外からどう引き込んでいくか。「マウント富士」「芸者」。これらは「浮世絵」から認識されたものだと思う。
- ・727の島、香川には112、岡山には87の島。自由に絵を書きなさいと招聘し、いろいろな芸術家が見る瀬戸内海を絵にしてくれている。
- ・瀬戸内の島は一つ一つ形が違う。
- ・何かの方法で、世界の芸術家を呼び込めるよう、何らかの方法で発信したらいいのでは。

○内海：

- ・観光協会の会長もしている。
- ・島に行って何が良いか。ゆったりとした時の流れを楽しむ。朝行って、夕方まで便がない。
- ・野良猫を抱いて、かわいいと萌える、それが島の魅力。
- ・全体的な魅力と、局所的、個別的に見ていくと、島はインフラが整っていない。大勢が押し掛けると問題が起きる。
- ・政策サイドが自分でやって、「良かった、良かった」で終わっていないか。整理していかねばならない。
- ・1回目は105日、2回、3回目は108日の会期。何か考えがあったのか。 → 偶然でしょう。

□梅原：こまめに島々を回っている小西さん。

○小西：

- ・最初、瀬戸芸のことがわからず、島々の人はパニックでした。
- ・会場となる島々は観光地ではなく、自分の家の隣にわけの分からない芸術家に来て・・・
- ・「ゴミの問題は?」「家に鍵をかけないかんようになった」「誰がこんな島にしたんや」・・・
- ・わんさか人が来始め、島には食事の出来る場所もなく、バスや船の待ち時間、トボトボ島を歩いている人を車で送ってあげる、島の人のメンタリティ、人柄が、芸術祭を受け入れるきっかけになったと思う。
- ・若者たちが、島の人たちが気がついていない良いところを見つけてくれる。
- ・20人の人口の島にゲストハウスが出来ました。若者と島の人たちが化学反応を起こし良いものが出来てきている。

○石川：

- ・「イマジニアリング」 岡山城でキャッスル・ミュージアムのコンセプトで現代芸術。11万人がきた。瀬戸内とは文化のリテラシーが高い地域では。
- ・瀬戸芸の秋会期に岡山城で「岡山芸術交流（岡山アートサミット）」
 - ・岡山城でカレーを配るだけの作品 タイの作家
 - ・廃校になった高校でパターゴルフ
 - ・10月9日から約50日
- ・瀬戸芸に岡山空港から入る、岡山空港から旅立たれる方もいるでしょうから、観光資源としてグルグル回るようになって欲しい。

□梅原：瀬戸内海の活性化に取り組んでいる方は多い。しかし、世界から見たときに、知名度はまだ低い。日本の中においても、北海道や沖縄に比べて知名度が低い。この点について、なぜ低いのか、どうしたらいいのか。

○アレックス

- ・神戸港とかは別世界 広い。「瀬戸内」という種の統一感。
- ・アイディアとしてのツアーがない。大手の交通社は、バスに詰め込んで、観光地で食べさせて返す。
- ・海外のツアーは創造性豊かな、誰も行ったことがないような所を説明し、穴を見つけてツアーに。日本にはそのようなものが無く、メインコースで終わってしまう。
- ・もう一つは「宿」。
- ・佐渡島 これまでは「佐渡に行くので宿を探す」。
今は、「おもしろい宿はないだろうか。その宿が佐渡だった」。
- ・民宿、民泊的なバックパッカー用の縁はあるが、大人としてのある程度綺麗で、ある程度快適な宿はない。高松の町の近くにさえない。
- ・日本人は、洒落た美しい宿があれば、「行きたいなあ」という思いになります。

□梅原：

- ・観光のポイントを教えていただいたと思う。
- ・パートⅡ 「さらなる魅力充実に必要なこと」 ビデオ 14:20～
- ・北海道の魅力、食材、沖縄の伝統料理と沖縄の海でとれる食材。

- ・瀬戸内海は、四季折々の旬の魚を楽しむことができる。そんな瀬戸内で観光客を呼び込める食の魅力とは。
- ・グルメで、どのような形で提供し、お客さんを呼び込むか。

○内海

- ・四国じゅう、秘境をまわった。おいしいものがある、70歳にして初めて食べたというものがある。
- ・四国はこの小さな島の中で、みんな違う。大事なのはそれをどう提供するか。 → 「旬」を味わうこと。
- ・しかし、「旬」を出そうとすると、大きさが不揃い。その不揃いを楽しむような売り方をしないといけない。
- ・ジビエもやり方 キロ3千円 食べておいしいかわからないものを食べるのなら、確実においしくて安いものを食べる。
- ・昨夜、同窓会が新潟であり、「ながおか」「ノドグロ」 ノドグロがお客さん7人分がない。「半分に分けてくれたらいいよ」と、ゆっくりと構えて、お客さんは来てくれる。

□梅原：島の料理について

○小西：

- ・瀬戸内においしいものがある。地元の料理を食べたいと思っている。
- ・「あんなもの、お客さん出すようなものではない」と思っていたものが、外の方からは、「ストーリーがあるものおいしい」、小豆島の黒豆、岡山の牡蠣料理、笠岡の・・・
- ・島の鯛漁師 全ての魚が尾頭つき。そういう食べ方は都会では出来ない食べ方。よそゆきではなく、自分たち風を出すと、お客様の満足度は上がるのでは。

□梅原：黒川さん、東京にもよく行かれますが、東京はおいしいですか。

○黒川：

- ・東京で活け作りを提供いただくが、なんか違う。輸送の最中は魚が餌を食べていないので、違ってきているのではないかなあ。瀬戸内で釣りだちの魚の刺身を食べると、東京の刺身は食べられません。
- ・台湾や海外の人は「刺身」。ここにしかない「オコゼの唐揚げ」。場所場所で料理の仕方が違う「鯛飯」
- ・世界に発信したい。

□梅原：陸の幸も捨てたものではない。今日から始まる夏会期、「食」をアートにする。瀬戸内海地域はグルメの地域。アクセスが重要になってくる。小島さん、アクセスについて。

○小島さん：

- ・瀬戸芸で、苦労して行くのも楽しみの一つ。
- ・ヨット型客船 海の7つ星をやろう。
- ・瀬戸芸5島を回るクルーズ バス2台を乗せて、30~40人のお客様で、既存のものを使ってやってみた。フェリーで、島で会場にすぐに行き、こじやれた宿泊施設を活用。アクセスも島の経済も良くなる。コンビニエンスを高めることが重要。
- ・島を巡る巡り方。サイクルアイランド小豆島
- ・3度目になるツールド小豆島

- ・スピリチュアル小豆島

□梅原：海の王者として、アクセスについて

○黒川：

- ・世界のクルージング人口が3千万人。日本だけでは20万人。中国人は300~400万人
- ・高松港なりにクルージングで来てもらい、豪華な観光客船で一日楽しめないと、海外の人は来てもらえない。
- ・港湾が整備されていないので、桟橋がいる。
- ・交通の便が悪い、一日に島に一便しかない。気軽に島観光が出来ること、アクセスが一番大事。
- ・お客さんが来るから整備するのか、お客さんが喜ぶようなことを先に整備をするのか。
- ・エーゲ海よりも瀬戸内の方がはるかに見るところが多い。

□梅原：「一衣帯水」 岡山と香川は一衣帯水の関係、緊密な関係。両県の代表から一人ずつ、まちづくりに意見を。

※一衣帯水（いちいたいすい）：一筋の帯のように、細く長い川や海峡。転じて、両者の間に一筋の細い川ほどの狭い隔たりがあるだけで、きわめて近接しているたとえ。「衣帯」は衣服の帯。細く長いたとえ。「水」は川や海などをいう。

○石川：

- ・愛媛、香川、岡山、広島が、「瀬戸内芸術の道州制」、一つのアートのエリアになっても良いのでは。
- ・福武さんも20数年前からやってきてようやく。
- ・アートとうどん、後樂園と瀬戸芸。組み合わせだと思う。
- ・新しい視点で、食の開発をしてもいいのでは。食とアートは関係がありそう。笠岡のワタリガニ、今治でウニ 全員が知っているうどんや吉備団子を押しより、地域のブランディングを考えるきっかけに。

○小西：

- ・島と陸が近いのが特徴。マザーポートを通っていく。地元とお客さんをつなぐコミュニケーターが大事。
- ・いきなり行って味わえるものではなく、入り口で橋渡しをする人が必要。ゲストハウスのオーナーさんが、この役割を担っていると思う。
- ・瀬戸内のコンテンツ 島は不便なことが、価値になる。それを楽しむにはサポーターが必要。

□梅原：

- ・パートⅢ 情報をどう発信し、インバウンドにつなげるか ビデオ 14:43~14:45
- ・1974万人 四国は45万人のうち香川は22万人が宿泊。
- ・日本人が訪れないような意外な場所が、外国人に注目されている。
- ・何が彼らを引きつけているのか、外国人がみた瀬戸内の魅力とは。
- ・アジアを越え、欧米まで、認知を高めていくには、どのような視点を持てばいいか。

○アレックス・カー：

- ・宿や・・・について先ほど話した。
- ・日本語でも何を伝えたいのか、何が魅力なのか、英語も分かりにくい。

- ・大手の交通社の情報でやってくるのではなく、ネットの情報で来ている。瀬戸内海はネットでの情報発信が出来ていない。
- ・なぜ、世界の人がエーゲ海に行くのか。きれいだから。
- ・日本は、昔の海岸をコンクリートで固めていく。公共事業でモニュメントを作り、お粗末にしてきた。看板の規制、電線の地中化に取り組んできていない。
- ・中身をしっかりとブラッシュアップしていく。錆びた看板の撤去、公共施設の撤去、各方面でも景観に力を入れる。
- ・古い町並みも、おじいちゃん、おばあちゃんが、がたがたと崩れていく。
- ・観光業は競争社会。瀬戸内は古い山・川・海岸を大事にしないと、最終的に世界の観光の中で負ける怖さもある。

□梅原：アレックスさんは日本のファンで、美しき日本の残像 いぬと・・・

○黒川：

- ・テーマパーク 円の中に1千万人の人がいないと成功しない。1時間圏内に相当の人口がないと、どんなにしても人を呼び込めない。
- ・海外の人が九州に来ているが、次は阪神に行ってしまう、四国は素通り。新幹線やフェリーで移動。何をあいてもインフラ。
- ・瀬戸内の魅力は、若い人はどこに魅力を感じているのか、どう瀬戸内のことを思っているのかアンケートをとってもらい。若い人が魅力を感じてもらわないと、人は来ない。
- ・しまなみ海道 サイクリングは世界的に有名になり、世界から人が来る。
- ・世界的に何が、イベントが出来るかを考えて。さすれば、岡山、香川は活性化する。

□梅原：情報発信について内海さんと小島さんに。

○内海：

- ・B級グルメでチラシやSNS 難しい。
- ・6階の食堂で来ているのは女性ばかり。女性に来てもらえる情報発信を。

○小島：

- ・情報発信はいろいろな手法が出来ていて、今やっているのは「ワンダフル瀬戸内」
- ・ツールド 世界の人が集まる。10の自治体が参加し、体験型での集客の企画。→ 地道に広げていく。
- ・情報発信は人である。Facebook、LINE、Twitter 昔で言う口コミ。ウェブに載るようなものがきちとなっているか。
- ・「にたまちゃん」 香港から猫を見に2万人が来る。
- ・Wi-Fi がきちと発信が出来ていること。
- ・一人一人から出て行く発信が、我々が地域のことに誇りを持ち、発信をしていくこと、世界へ向けていくことが大事。

□梅原：知って、自慢したくなったら発信して。瀬戸内海の可能性について一言。

○小西：地元の方に、騙されたと思って島に行ってください。地元の方に愛されない観光地はない。

○内海：海をきれいにしましょう。海の砂を売ってもうけるようなことはやめましょう。

○黒川：愛媛の島で生まれ、遊び場は海と砂浜でした。私の体には瀬戸内の海水がしみこんでいる。
瀬戸内には魅力がある、島にも特徴がある。海だけでも四季がある、変化がある。瀬戸内の海無しでは生活はできない。

○小島：夢がある。オリーブ王国小豆島。独立して、世界に小豆島のすばらしさを世界に訴えていきたい。

○石川：自らの地域を誇らしく語ることが、ブランディングにつながる。

○アレックス：みなさん起業家になりましょう。新しい形の農業をやったことにより小豆島のオリーブの成功、新しい林業、新しいアート、・・・ 経済も行き止まりになり、古いやり方では成り立たない。新しいことをやる時が来ている。

□梅原：観光は地方創世の力。瀬戸内海という世界の宝石を持っているので、私たちが発信します。
観光発信の主役、地方創世の主役は住民。

15:05~15:07 オーマイ瀬戸内プロジェクト 閉会挨拶

- ・熱心に聞いていただき、たいへん得るところがあった。
- ・アレックス・カーンさん 美しいものが勝つ 瀬戸内の自然、美しい海、色々な答えを見つけていかなければならない。
- ・いろいろな示唆の多い会で、OHKでは、瀬戸内の魅力をどんどん見つけて発信し、瀬戸内を元気に、地域に良いものを増やしていきたい。これからもシンポ、良い番組を、プロジェクトを続けていく。

★8月6日（土）、午後1時から2時の特別番組で放映。

—以上—